若者における方言の認識

岡山弁による検証

[学校]

[コースのタイトル]

*若者の中で方言が廃れているといわれることがよくある。そこで岡山県出身・在住の若者を対象に、方言として認識できていない言葉にどのようなものがあるか調査し、考察してみた。*

**調査方法**

方言（岡山弁）の特徴的な語彙を使った例文を15題作成し、この例文を標準語に変換してもらうアンケートを実施した。

* 調査期間
  + 2013年8月1日～8月20日
* 被験者数
  + 100人
* 被験者の条件
  + 岡山県出身・在住であること
  + 10～20代であること

**調査結果**

今回の調査では方言で作成した例文を、標準語に変換してもらった。この回答結果の中で、方言を正しく標準語に変換できた場合、方言として認識されていると考える。反対に、正しく標準語に変換できなかった場合、方言として認識されていないと考えることとする。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 例文 | 認識している人数 | 認識していない人数 |
| ●岡山全域で使われている方言 | | |
| 今年も『ぎょーさん』桃が取れた。 | 98人 | 2人 |
| いたずらばかりしちゃ『おえん』。 | 94人 | 6人 |
| 試験前は徹夜続きで『えれー』ね。 | 91人 | 9人 |
| 『ちばけて』ないで勉強しなさい。 | 87人 | 13人 |
| バックの取っ手が『もげそう』だ。 | 82人 | 18人 |
| 学校の廊下で財布を『ひらった』。 | 80人 | 20人 |
| この時計、『めげてる』よ。 | 73人 | 27人 |
| 昨日の試験は『みやすかった』ね。 | 52人 | 48人 |
| 道が『つかえて』たよ。 | 46人 | 54人 |
| 机を『ひこずらず』に運びなさい。 | 41人 | 59人 |
| 落ちたペンに手が『たわない』。 | 34人 | 66人 |
| 手に『すいばり』が刺さって痛い。 | 25人 | 75人 |
| 新聞を『なおして』おいてね。 | 21人 | 79人 |
| ●特に備前地方で使われている方言[[1]](#footnote-1) | | |
| 早く勉強『せられー』。 | 76人 | 24人 |
| 寝不足で『頭がわりー』。 | 53人 | 47人 |

**分析**

方言として認識されにくかった「なおす」「たう」「ひこずる」「つかえる」「みやすい」といった言葉は、「方言だとは知らなかった」「周囲でも通常使っている」などの感想があった。これらの言葉は、岡山弁の特殊な語彙ではあるが、岡山弁の特徴（連母音が融合するなど）が含まれていないため、一見して標準語と勘違いしやすいと考えられる。

「ぎょーさん」「おえん」「えれー」などは、いかにも方言らしい音を持っているためか、方言であることに気づく割合は非常に高い。

「すいばり」は、「この言葉以外どう表現していいのかわからない」といった感想が多かった。これは、メディアで耳にする機会がないためではないかと考えられる。

方言として、しているものとしていないものの例 1

**考察**

調査の結果から、若者は方言を認識し、標準語に変換できる能力を有していると言える。ただし、メディアで標準語の表現を耳にしない語彙に関しては、生活環境下で使われる方言を標準語と認識し、方言を方言として認識できていない傾向がある。つまり、若者が使用している言語は、「メディアから受ける標準語の影響」と「生活環境から受ける方言の影響」を受けていることがわかる。若者は、両親の教育や地域の人々との交流を通して方言を習得しながら、メディアを通じて標準語を習得していると言える。若者の間で方言は廃れたと言われているが、実際にはメディアなどの影響から方言は格好悪いと感じ、自発的に使おうとしていない傾向があると考えられる。

1. 岡山県東部にわたる地域のこと [↑](#footnote-ref-1)